

2 学期始業式 学校長の話（2026 年 8 月 26 日）

おはようございます。

2 学期を始める前に、どうしても話しておきたいことがあります。

この夏、大きな災害が二つありました。一つは 7 月 28 日の熊本の地震です。震度 7 を観測し、10 年前の熊本地震と、ほとんど同じ地域で大きな被害が出ました。もう一つは、8 月 13 日から 14 日にかけての千葉の豪雨です。千葉市では、たった半日で、8 月ひと月分の約 3 倍もの雨が降りました。

熊本では 39 人、千葉では 13 人の方が亡くなっています。亡くなられた方々に、心からお悔やみを申し上げます。そして今も、家に帰れず避難生活を続けている人がたくさんいます。この暑さの中、本当に大変だろうと、ニュースを見るたびに胸が痛みます。

そんな夏を越えて、皆さんが大きな事故もなく、こうしてこの体育館に戻ってきてくれた。それが何よりうれしいです。

きょうは、たくさんの表彰がありました。名前を呼ばれた皆さん、おめでとう。暑い中、本当によく頑張りました。僕も、この夏いくつかの試合や演奏を見に行かせてもらいました。

ただ、賞状をもらった人だけが頑張ったんじゃないですよ。あと一歩で負けた人もいます。学校のクラブだけでなく、外で野球やサッカーを続けた人、ピアノやダンス、塾で勉強を頑張った人もいますでしょう。甲子園だって 49 校が出場して、優勝できるのは 1 校だけです。でも、残りの 48 校の努力がなくなるわけではありません。誰も表彰してくれなくても、続けたということは、それだけで力です。そこは、自分で自分を認めてあげてください。

さて、最初の災害の話に戻ります。僕がニュースを見ていて忘れられないのは、避難所で、知らない人同士が水を分け合ったり、泣いている子どもに声をかけたりしている姿です。誰かに褒められるからやっているわけではない。表彰状が出るわけでもない。それでも、目の前に困っている人がいたから、自分にできることをしていた。

その姿を見て、僕が大切にしている言葉を思い出しました。

「Do the Right Thing」。

アメリカの映画監督、スパイク・リーの作品のタイトルでもあります。「正しいことをする」という意味です。僕は判断に迷ったとき、この言葉に戻ります。

「おまえのやっていること、それは正しいことか」と、自分に聞く。

偉そうに言うてますけど、僕もできないときはたくさんあります。この歳になっても、正しいと分かっているのに、その場の空気に流されて言えへんかった、ということがある。簡単やったら、座右の銘になんかしてません。難しいからこそ、自分に言い聞かせるために、この言葉を持っています。

学校生活でも同じです。誰かがいじられて、みんなが笑っている。でも、いじられている人は笑っていない。そんな場面で、一緒に笑うのは簡単です。でも、「それ、やめとこや」と言うのは勇気がいる。大事なものは、困っている人に気づいたときに、知らん顔をしないことです。避難所で水を分けていた人たちも、目の前に困っている人がいたから、自分にできることをした。教室でも、それは同じです。

「今、自分にできる正しいことは何か」。

そう考えて、できることをしてほしいです。

2 学期は、夏から秋、そして冬へと、三つの季節をまたぐ長い学期です。体育大会をはじめ、行事もたくさんあります。みんなで盛り上がる時間も増えるでしょう。でも、盛り上がっているときほど、しんどい人の声は小さくなり、聞こえにくくなります。そんなとき、一回だけ立ち止まって、「これ、正しいか」と自分に問いかけてください。これは皆さんだけではなく、僕たち大人への宿題でもあります。

そして、いつもの話です。

「自分を大切にすること。そして、隣にいる人を大切にすること」

まだ暑い日が続きます。無理はせんといってください。しんどいときは、声を上げてください。2 学期も、明日も来なくなる北稜中を、みんなでつくっていきましょう。